



しなやか先端技術企業集団

環境にやさしいテクノロジーで未来を創造

AIC ワイエシイホールディングス 株式会社

東証1部 証券コード:6298

事業フィールド



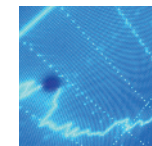
ハードディスク



精密熱処理



ディスプレイ



工業用計器・制御通信



半導体



精密切断



太陽電池



レーザープロセス



クリーニング



医療

第46期 ビジネスレポート

平成29年4月1日～平成30年3月31日



代表取締役社長
百瀬 武文

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに『第46期ビジネスレポート』をお届けいたします。

当期の連結業績は、メカトロニクス関連事業において増収・増益となりましたが、全体としては売上高、営業利益とも前期実績とほぼ同水準での着地となりました。第47期につきましては、例年になく大きな受注残を抱えてスタートしておりますので、通期計画を上回る結果を出すことができるよう、邁進してまいります。

今年、お陰様でワイエイシイホールディングス株式会社は創立45周年を迎えました。これを機に3冊目の著書『未上場企業への光明』を出版しました。ワイエイシイの歴史や経営への思い、また今後の展望につきましても書き記させていただきました。5年後の創立50周年に向かって、また、さらなる未来に向かって飛躍できるよう、全ての社員とともに頑張っております。

また、当期の期末配当金は1株につき10円とし、中間配当金の

10円とあわせまして年間20円とさせていただきます。株主の皆様への利益還元を経営上の重要なテーマのひとつと位置づけ、業績や事業計画などを総合的に勘案し、安定的な配当を継続することを基本方針としております。引き続き競争力の強化に努め、株主の皆様への利益の拡大に努めてまいります。

今後も既存事業における規模の拡大並びにM&A、アライアンスに積極的に取り組むとともに、「第4次産業革命」に関連した新商品の開発や、生産性の向上を目的とした「働き方改革」にも積極的に取り組み、更なる経営基盤の拡充を進めるとともに、より多く社会に貢献してまいります。

株主の皆様におかれましては、これからも引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年6月

さあ今日も、
ときめきと感動の日々であれ！

創業理念

1. 技術集約会社
2. 旺盛なバイタリティー
3. リスクに果敢にチャレンジする
4. 少数精鋭主義

成長理念

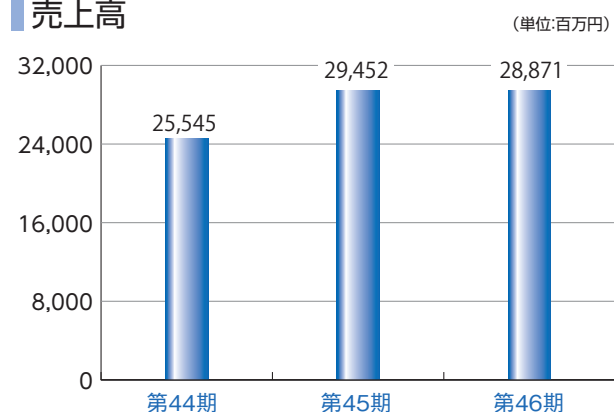
1. 社員の豊かさを追求する（経済的、精神的）
2. 国・地方自治体により多く納税する
3. 新製品の創造・提供
4. 地域社会への貢献
5. 株主を優遇する
6. 環境保全のため省資源・省エネルギーを図る

究極の理念

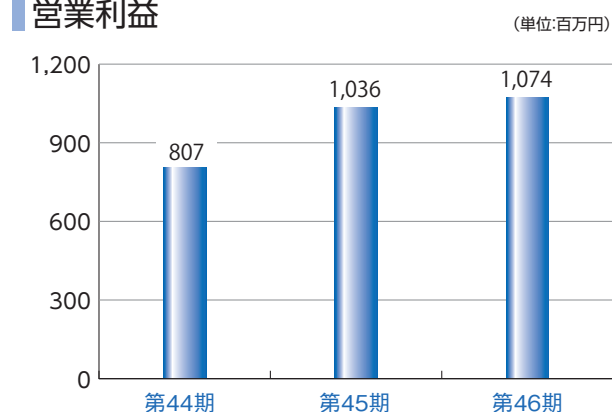
- ～より多く社会に貢献するために～
1. 社員の成長
 2. 雇用の拡大
 3. 雇用条件の向上
 4. 納税額の拡大

	第44期	第45期	第46期
売上高	25,545百万円	29,452百万円	28,871百万円
営業利益	807百万円	1,036百万円	1,074百万円
親会社株主に帰属する当期純利益	28百万円	790百万円	403百万円
1株当たり純資産額	1,482.87円	1,545.37円	1,578.33円
自己資本比率	38.1%	42.5%	37.0%
配当金	20円	20円	20円

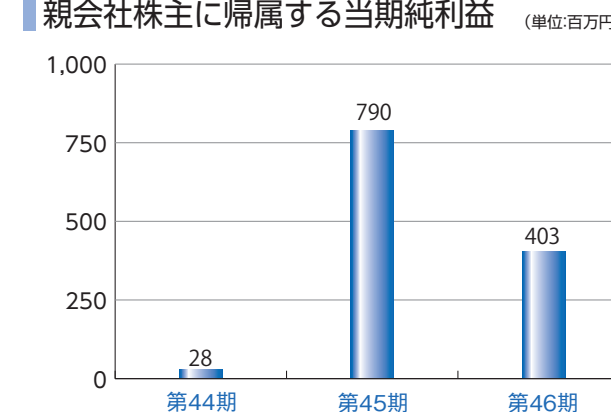
■ 売上高



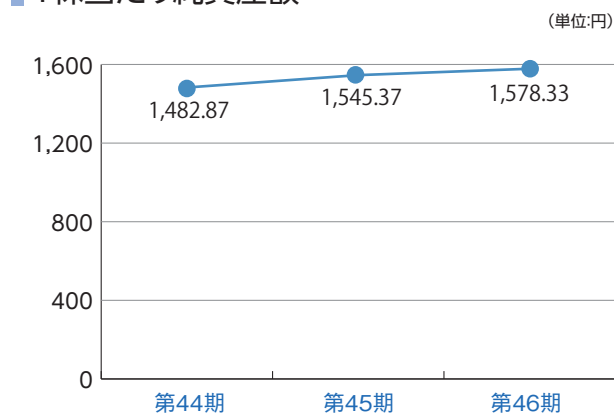
■ 営業利益



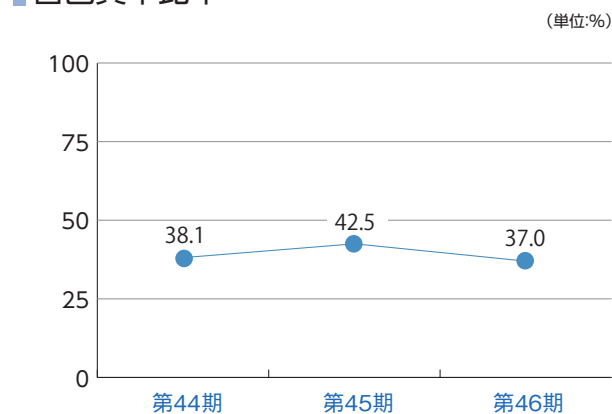
■ 親会社株主に帰属する当期純利益



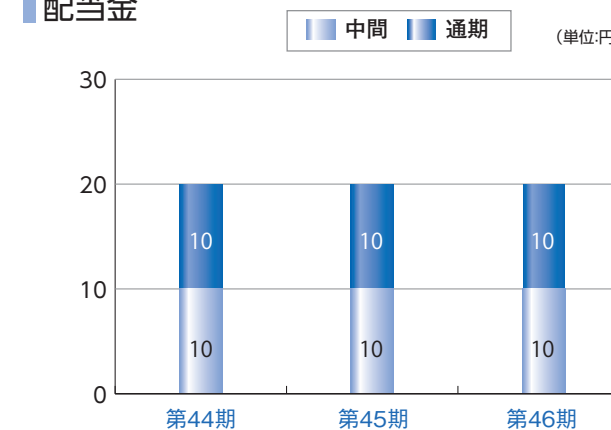
■ 1株当たり純資産額



■ 自己資本比率



■ 配当金



事業概況

当連結会計年度(平成29年4月1日から平成30年3月31日)における世界経済は、米国では金融正常化の動きのなか、堅調な成長が続きました。欧州では雇用の改善を背景に個人消費が堅調に推移しました。中国では世界経済の回復を受けて改善の兆しが見られるなど、総じてゆるやかな成長基調で推移しました。一方で、北朝鮮の動向や中東情勢の緊迫化等による先行き不透明感も広がっております。

日本経済においては、政府・日本銀行による経済政策を背景に雇用が着実に改善し、個人消費や企業業績が堅調に推移するなど、総じてゆるやかな回復基調で推移しました。

このような経済状況のもとで当社グループは、刻々と変

化する顧客ニーズを捉えた装置の開発と市場化に努めてまいりました。

この結果、当連結会計年度の業績は、売上高288億71百万円(前連結会計年度比2.0%減)、営業利益10億74百万円(同3.7%増)、経常利益9億55百万円(同14.9%減)、親会社株主に帰属する当期純利益4億3百万円(同48.9%減)となりました。

経営の現状と次期見通し

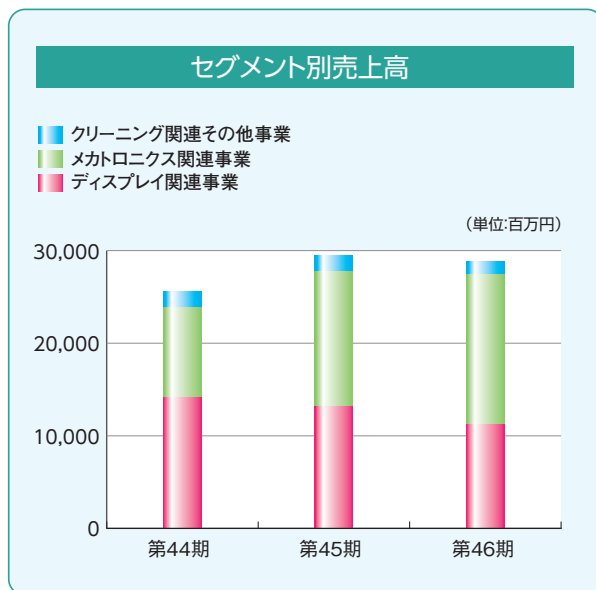
今後の見通しにつきましては、世界経済は北朝鮮や中東情勢等による先行き不透明感が広がっているものの、足元の景況感を着実な

改善傾向にあり、総じてゆるやかな成長基調が続くものと思われま

す。このような事業環境のもと、当社グループにおきましては「規模の拡大」と「高収益体質の構築」の実現を目指してまいります。ここ数年のM&Aにより拡大した当社グループ会社間の更なる連携強化により、業績の拡大を図ってまいります。

次期の業績は、連結ベースで売上高360億円、営業利益18億円、経常利益16億円、親会社株主に帰属する当期純利益8億円を予想しております。

セグメント別の状況



ディスプレイ関連事業

旺盛な市場需要により受注は好調に推移しましたが、一部エッチング装置の受注時期の遅れから売上計上のずれ込み、及び一部装置が利益を圧迫し、前連結会計年度の実績に対して減少しました。

これらの結果、ディスプレイ関連事業の売上高は112億18百万円(前連結会計年度比15.1%減)となり、セグメント損失は1億73百万円(前連結会計年度はセグメント利益3億94百万円)となりました。

メカトロニクス関連事業

前連結会計年度下期より連結対象となったワイエイシイエレクトクス株式会社が当連結会計年度においては期初から業績に寄与しているほか、制御通信事業において大口売上を計上するなど、業績は好調に推移しました。

これらの結果、メカトロニクス関連事業の売上高は161億89百万円(前連結会計年度比11.2%増)となり、セグメント利益は12億1百万円(同20.3%増)となりました。

クリーニング関連その他事業

クリーニング関連装置分野においては、国内のクリーニング需要の減少傾向が続く厳しい環境のなか、微減となりました。

これらの結果、クリーニング関連その他事業の売上高は14億72百万円(前連結会計年度比12.8%減)となり、セグメント損失は1億12百万円(前連結会計年度はセグメント利益2億91百万円)となりました。

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当期 平成30年3月31日現在	前期 平成29年3月31日現在
【資産の部】		
1 流動資産	29,878	24,308
固定資産	8,386	8,162
有形固定資産	6,661	5,446
無形固定資産	706	890
投資その他の資産	1,019	1,825
資産合計	38,265	32,470
【負債の部】		
2 流動負債	15,623	10,907
固定負債	8,222	7,515
負債合計	23,846	18,422
【純資産の部】		
株主資本	14,270	14,001
その他の包括利益累計額	△127	△203
新株予約権	51	46
非支配株主持分	224	202
3 純資産合計	14,419	14,047
負債純資産合計	38,265	32,470

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	当期 自平成29年4月1日 至平成30年3月31日	前期 自平成28年4月1日 至平成29年3月31日
売上高	28,871	29,452
売上原価	22,729	23,826
販売費及び一般管理費	5,067	4,589
営業利益	1,074	1,036
営業外収益	97	175
営業外費用	217	89
経常利益	955	1,122
特別利益	22	35
特別損失	112	17
税金等調整前当期純利益	864	1,140
法人税等	431	331
当期純利益	433	809
非支配株主に帰属する当期純利益	29	19
親会社株主に帰属する当期純利益	403	790

4 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	当期 自平成29年4月1日 至平成30年3月31日	前期 自平成28年4月1日 至平成29年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,598	4,354
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,808	△1,307
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,450	△1,463
現金及び現金同等物に係る換算差額	11	△35
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,251	1,548
現金及び現金同等物の期首残高	6,703	5,155
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	△28	-
現金及び現金同等物の期末残高	7,926	6,703

POINT 1 流動資産

当連結会計年度における流動資産は298億78百万円となり、前連結会計年度末に比べ55億70百万円増加しました。主な増加は、仕掛品16億50百万円、現金及び預金12億35百万円、有価証券8億57百万円、受取手形及び売掛金8億28百万円、繰延税金資産(短期)2億68百万円であります。

POINT 2 流動負債

当連結会計年度における流動負債は156億23百万円となり、前連結会計年度末に比べ47億16百万円増加しました。主な増加は、支払手形及び買掛金24億73百万円、短期借入金9億79百万円、前受金4億58百万円、未払法人税等3億96百万円であります。

POINT 3 純資産

当連結会計年度における純資産は144億19百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億71百万円増加しました。その結果、自己資本比率は37.0%となり、1株当たり純資産は1,578円33銭となりました。

POINT 4 連結キャッシュ・フロー

当連結会計年度における営業活動による資金は、15億98百万円の増加(前連結会計年度は43億54百万円の増加)となりました。

これは主に、

■プラス要因

- (1)「仕入債務の増加」24億71百万円
- (2)「税金等調整前当期純利益」8億64百万円
- (3)「減価償却費」6億10百万円
- (4)「前受金の増加」4億56百万円

■マイナス要因

- (1)「たな卸資産の増加」17億76百万円
- (2)「売上債権の増加」9億26百万円
- (3)「未収消費税の増加」3億36百万円
- (4)「法人税等の支払額」3億20百万円

また、投資活動による資金で18億8百万円減少、財務活動による資金で14億50百万円増加した結果、当連結会計年度における現金及び現金同等物は、前連結会計年度に比べ12億25百万円増加し、79億26百万円となりました。

トピックス **1**

FPD向けドライエッチング装置増産に向け新工場竣工

フラット・パネル・ディスプレイ (FPD) 向けドライエッチング装置の増産に向け、新工場(名称：ワイエイシイテクノロジーズ株式会社 富士工場 住所：山梨県鳴沢村)が本格稼働しました。

当社装置の需要の拡大に対応するため、これまでの協力工場での生産に加え、自社新工場でも生産を行うことで、第6世代ドライエッチング装置の生産能力を従来の最大2倍に高めることが可能となります。



トピックス **2**

当社は創立45周年を迎えました

2018年5月11日、ワイエイシイホールディングス株式会社は創立45周年を迎えました。今後の更なる飛躍を図るため、下記の通り短期から中長期に至るストーリーを策定いたしました。

このストーリーに基づいて計画を達成するために、グループ社員全員で邁進しております。

①10年後のビジョン

グループ各社の10年後の数値目標及び戦略を策定

②創立50周年時の目標(5年後)

「10年後のビジョン」の達成に向け、5年後の数値目標及び戦略を策定

③CCチャンピオンシップ計画(直近の3ヶ年計画)

将来の「10年後のビジョン」及び「創立50周年時の目標」の達成を見据え、グループ各社で業績を競技種目に見立てて上昇率を争うイベント

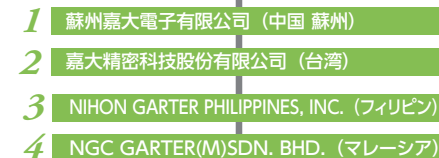
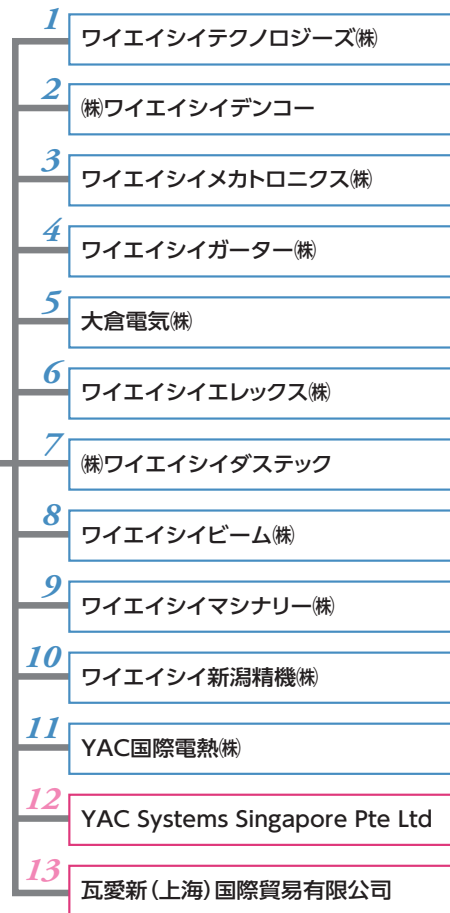
また、創立45周年を機に、当社代表取締役社長 百瀬武文が3冊目の著書『未上場企業への光明』(WAVE出版)を出版しました。



ワイエイシイグループの構成

ワイエイシイホールディングス傘下 全17社
 国内グループ会社 11社
 海外グループ会社 2社
 海外孫会社 4社

ワイエイシイホールディングス(株)



会社概要

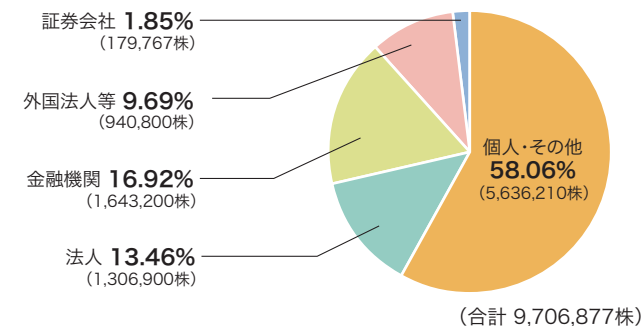
商号 ワイエイシーホールディングス株式会社
 英文表示 Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD.
 本社 東京都昭島市武蔵野三丁目11番10号
 設立 昭和48年5月11日
 資本金 2,778百万円
 従業員数 30名 (連結848名)
 (出向社員・契約社員等の臨時雇用者含まず)

株式の状況

会社が発行する株式の総数 34,388,000株
 発行済株式の総数 9,706,877株
 当期末現在の株主数 5,419名
 個人・その他※ 5,262名 5,636,210株
 法人 40名 1,306,900株
 金融機関 23名 1,643,200株
 証券会社 27名 179,767株
 外国法人等 67名 940,800株

※自己株式を含みます。

所有株式数分布状況



役員・執行役員

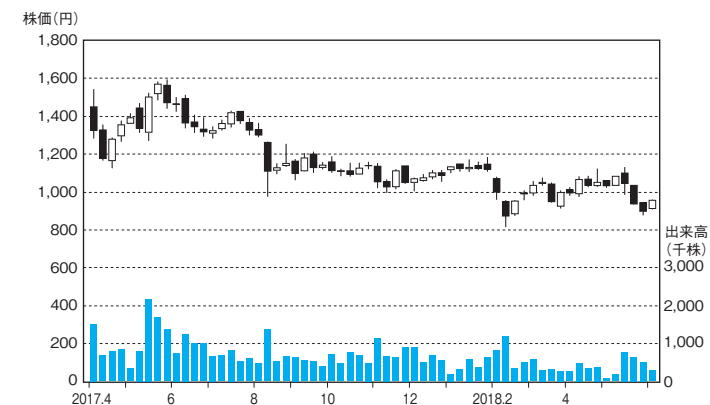
代表取締役社長 百瀬 武文
 取締役常務執行役員 副島 幸雄
 取締役常務執行役員 寺本 和政
 取締役 佐藤 康男
 取締役 伊藤 利彦
 取締役 大福 芳弘
 取締役 福田 辰徳
 取締役 大倉 章裕
 取締役 久保 進
 取締役 石田 祥二 ※社外取締役
 取締役 木船 常康 ※社外取締役
 常勤監査役 古橋 博
 監査役 高田 直規 ※社外監査役
 監査役 飯田 哲郎 ※社外監査役
 執行役員 坂本 克幸

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社モトタケ	1,220	13.61
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	446	4.99
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	340	3.80
百瀬 武文	286	3.20
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/ JASDEC/ACCT BP2S DUBLIN CLIENTS-AIFM	256	2.86
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)	224	2.51
野村信託銀行株式会社(投信口)	167	1.87
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	126	1.41
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口1)	118	1.32
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口2)	109	1.23

※当社は、自己株式を745,843株保有しておりますが、大株主からは除外しております。

株価・株式売買高の推移(週足)



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日	同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
期末配当金受領株主確定日	3月31日		郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
中間配当金受領株主確定日	9月30日		
定時株主総会	毎年6月		
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社	上 場 証 券 取 引 所	東京証券取引所
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社	公 告 の 方 法	電子公告により行います 公告掲載URL http://www.yac.co.jp/ (ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

ホームページのご紹介

株主・個人投資家の方々に対しての
当社の状況をわかりやすく伝えたコンテンツを
提供しております。

<http://www.yac.co.jp/>

または、

ワイエイシイ

検索

で検索ください。

ワイエイシイホールディングス 株式会社

〒196-0021 東京都昭島市武蔵野3-11-10
TEL:(042)546-1161(代表) FAX:(042)546-1107
URL <http://www.yac.co.jp>